

前奏: 「神よりわれ離れじ」(0. ブクステフーデ)

招詞: 神の家とは、真理の柱であり土台である生ける神の教会です。(1テモ 3:15b)

讚美歌 8「心の底より」

交読詩編 46

01 【指揮者に合わせて。コラの子の詩。アラモト調。歌。】

02 神はわたしたちの避けどころ、わたしたちの砦。苦難のとき、必ずそこにいまして助け
てください。

03 わたしたちは決して恐れない/地が姿を変え/山々が揺らいで海の中に移るとも

04 海の水が騒ぎ、沸き返り/その高ぶるさまに山々が震えるとも。〔セラ

05 大河とその流れは、神の都に喜びを与える/いと高き神のいます聖所に。

0:6 神はその中にいまし、都は揺らぐことがない。夜明けとともに、神は助けをお与えに
なる。

07 すべての民は騒ぎ、国々は揺らぐ。神が御声を出されると、地は溶け去る。

08 万軍の主はわたしたちと共にいます。ヤコブの神はわたしたちの砦の塔。〔セラ

09 主の成し遂げられることを仰ぎ見よう。主はこの地を圧倒される。

10 地の果てまで、戦いを断ち/弓を砕き槍を折り、盾を焼き払われる。

11 「力を捨てよ、知れ/わたしは神。国々にあがめられ、この地であがめられる。」

12 万軍の主はわたしたちと共にいます。ヤコブの神はわたしたちの砦の塔。〔セラ

朗読聖書①イザヤ書 43:1-7

01 ヤコブよ、あなたを創造された主は/イスラエルよ、あなたを造られた主は/今、こう言
われる。恐れるな、わたしはあなたを贖う。あなたはわたしのもの。わたしはあなたの名
を呼ぶ。02 水の中を通るときも、わたしはあなたと共にいる。大河の中を通っても、あなたは押し
流されない。火の中を歩いても、焼かれず/炎はあなたに燃えつかない。03 わたしは主、あなたの神/イスラエルの聖なる神、あなたの救い主。わたしはエジプトを
あなたの身代金とし/クシュとセバをあなたの代償とする。04 わたしの目にあなたは価高く、貴く/わたしはあなたを愛し/あなたの身代わりとして人
を与え/国々をあなたの魂の代わりとする。05 恐れるな、わたしはあなたと共にいる。わたしは東からあなたの子孫を連れ帰り/西から
あなたを集める。06 北に向かっては、行かせよ、と/南に向かっては、引き止めるな、と言う。わたしの息子
たちを遠くから/娘たちを地の果てから連れ帰れ、と言う。07 彼らは皆、わたしの名によって呼ばれる者。わたしの栄光のために創造し/形づくり、完
成した者。

朗読聖書②ルカによる福音書 8:22-25

◆突風を静める

22 ある日のこと、イエスが弟子たちと一緒に舟に乗り、「湖の向こう岸に渡ろう」と言われ
たので、船出した。23 渡って行くうちに、イエスは眠ってしまわれた。突風が湖に吹き降ろして来て、彼らは
水をかぶり、危なくなった。24 弟子たちは近寄ってイエスを起こし、「先生、先生、おぼれそうです」と言った。イエス
が起き上がって、風と荒波をお叱りになると、静まって凪になった。

25 イエスは、「あなたがたの信仰はどこにあるのか」と言われた。弟子たちは恐れ驚いて、

「いったい、この方はどなたなのだろう。命じれば風も波も従うではないか」と互いに言
った。

祈 禱

天地の創造主にして全能なる生ける真の神、あなたの聖名を褒め称えま
す。あなたが今日も私たちに新しい生命を与えてくださり、この礼拝堂へ
と、またライブ配信へと呼び集めてくださいました恵みを心から感謝致し
ます。あなたがこの場所を整えてくださいました。あなたが私たちに御言
葉を聴かせ、御業を為そうとされておられます。主よ、どうぞ、あなたの
業のために私たちをお用い下さい。そのために私たちがこの礼拝において、
全てをあなたに明け渡すことが出来ますように。

過ぐる一週間を顧みる時、私たちの心はしばしば頑なでありました。時
に自分が正しいと言い張り、譲ることが出来ず人を審きました。また時に
忙しさを言い訳にして、あなたに祈ることを、他者のために祈ることを怠
りました。私たちはあなたの“幸いなるかな!”との呼び掛けに応えること
が如何に少なかったことでしょう。主よ、私たちのそのような頑なな心を
あなたが打ち砕いてください。聖霊を注いでください。“信仰を持っている”
と言いながら、あなたの言葉を遠ざける私たちに赦しの恵みを与え、主イ
エスのような柔和な心を私たちの中に造ってください。私たちをあなたの
聖霊で充たし、喜びと感謝の心を持てますように生まれ変わらせてくださ
い。

造り主よ、私たちばかりでなく、この世界を新しくしてください。地上
で続く混乱を、また戦乱を、あなたが鎮めてください。多くの人の命が奪
われ続けています。この不条理と悲劇の世にあなたが介入してください。
慰めを求める人々に癒しの御言葉を、勇気を求める人々に励ましの御言葉
をお与えください。全ての国が、全ての人が、あなたの愛と義に生きるこ
とが出来るようにしてください。そのためにも、この地上に立つ教会を、
また私たち一人ひとりを、平和を創り出す者として用いてくださいますよ
うに切にお願い致します。

主よ、どうか、この教会をあなたの福音を宣べ伝える群れとして相応し
くしてください。この教会で行われる全てのことが御旨に適うものとなり
ますよう必要な働きを教えてください。そして私たちのその働きによって、
あなたの聖名が崇められ、益々、福音の光を照り輝かすことが出来るよ
うにしてください。

憐れみ深き主よ、悩みの内にある者を顧みてください。病床にある者、
またその介護のため、高齢のために疲れを覚え、あなたの御用のために働
きたくても働けない者が多くおります。教会から遠ざかっている友もいま
す。あなたに背を向けあなたの恵みを無駄にしようとしている者もいま
す。また愛する者を御国へと見送り悲しみの中にある者もおります。どう
かその全ての者に慰めと癒しと励ましをお与えください。今、此処にあつ
ても、私たちの心の内には様々な思い煩いがあります。しかし主よ、それ
らの私たちの思いに勝って、私たちの悩みを知ってくださるあなたが、
いつも私たちを見守り、傍らに立ってくださることを信じ、祈りを合
わせ、願いを一つに出来るようにしてください。

主よ、今日あなたがこの教会に立ててくださった説教者を感謝致します。
鮎川健一牧師が聖霊の導きを豊かに受けて、あなたの御言葉を取り次ぐこ
とが出来ますように。聴く私たちも聖霊に導かれて、心と思いとを開くこ

とが出来ますように。

今、あなたに栄光を帰する最高の時として、この礼拝を清め受け入れてください。

これらの祈りを、主イエス・キリストの聖名によって祈ります。アーメン。

讃美歌:214「わが魂のひかり」

説教:「嵐の中で」

鮎川健一

梅雨まだ明けぬ間に酷暑の日々が続く中で、今朝は雨の日の中ですけれども、新たな主の日を迎えました。近年著しい気候変動にあっても、日本各地において夏期宣教の活動が本格的に始まりました。私たちのこの世の歩みの現実、困難に直面すること常でありつつも、御言葉の真理によって一歩を踏み出す力を与えられています。しかし冷静な思いをもって信仰の原点に立ち返ることを抜きにしては、足元すくわれること必須です。

今朝は、主が嵐を静められた場面から御言葉に聴きます。場所はガリラヤ湖です。それ程大きな湖ではなく、向こう岸までは数キロほどです。土地勤もある元漁師のペトロたちの日常生活の場でもあります。彼らの舟は、漁に使うもので、しかも小さな舟です。毎日漁をして手慣れたものでしたが、この日は勝手が違いました。まだ向こう岸に着かないうちに、突風が吹いてきて波が激しくなり、舟が沈みそうになりました。湖は周囲を山に囲まれているがために、突然の突風もしばしばあったと思われまふ。日本にある湖も地形的にこのガリラヤ湖と似ていて、雲ひとつない晴れ間であっても、急に雲が湧き出て、そして突風と共に雷雨に見舞われることもよくあります。そのため遊覧船の欠航があったり、また湖周辺でのゴルフ大会やその他の催し物が中断・延期されることもよくあります。ガリラヤ湖も山からの吹き下ろしで湖を波立たせ、舟が転覆することもあったようです。ペトロたちは地元の漁師です。何が危険なのかを知っていました。しかしその彼らが、「おぼれそうだ」と叫んだのですから、事態は尋常ではなかったと思われまふ。問題は、この時の主の御姿です。弟子たちが何とか舟を操っているさなかに、主は眠っておられた。まったく次元が異なっているかのように見えます。嵐の中で主のところだけ静まっており、最近よく言われる『安心・安全』とは別に、主にあつて真実の意味をもった平安の中にありました。嵐さえも抵抗できないこの静かな平安が、弟子たちの騒がしさを物ともしない主の所にはありました。

当の弟子たちは恐怖心に襲われ、主を必死に起こします。弟子たちは主に、「何とかして下さい」と願いました。そこで主は「しかたないなあ、いつもの通りだ、相変わずだ、いっちょ、やってやろう」と思ったかどうかはさておき、主は「起き上がって風と波とを叱り」、静められました。そして弟子たちにこう言われました。「あなたがたの信仰はどこにあるのか」と。この言葉は、「信仰があれば恐れ慌て狼狽えることはない」という宣言と聞こえます。しかし現実、状況が状況であれば、「信仰があれば何も騒ぐことはない」とはならないものです。主が「大丈夫」と告げられても、「はい、そうですね」とならないのが人の心でしょう。むしろ平然としていられる方が一般的には変に思われまふ。日々の暮らしに大きな変化がなく、代わり映えのしないと思われまふ中で、突然の事故や出来事に見舞われた時には、大なり小なり誰しもが「大変だ!」と思うものでしょう。しかしそこで、人それぞれ、経験によって対応の仕方が異なるのも事実です。不意の出来事はこの世にある限り出くわ

すのですが、弟子たちが突如の出来事に見舞われた時、主は助けを願ってはならないとは断言しませんでした。「あなた方の信仰はどこにあるか」と問われたのです。決して「わたしを頼るな、起こすな、自分たちで何とかせよ」と言われたのではないのです。そうではなくて、「あなたたちと共にいることを忘れてるか。わたしが共にいることがどうにかわかっているか」、このことを確認されたわけです。ここでは私たちがまた「何を信じているのか」、「あなたが信仰を持っているとはどういうことなのか」、このことを問われています。

聖書に戻って、主が「風と荒波とを静められた」とこと、「あなたの信仰はどこにあるのか」と言われた、この言葉の順序が大切です。主の問いかけは、主が神の子としての力をもって既に風と波とを静められた後のことです。ここが重要です。主は助けを求めてくる弟子たちの求めを退けて言われたではありません。助けを求める叫びを聞き、そして受け止め、願いを聞き、嵐を静めた後に、このように問われたのです。つまり主の御言葉は、既に弟子たちを安全なところに移して、その上での言葉であるということです。私たちが日常様々な出来事の中で、人生の経験を積む中で、「あなたの信仰はどこにあるのか」と、このような神の言葉を聞くことがあると思います。そのとき既に信仰者としてあつて、その言葉を聴く時、神は私のために、また私たちのために風も波も静められる。既に安全な所に置いて下さつて、主は問われます。「あなたの信仰はどこにあるのか」と。そのような経験を何度も重ねていく中で、私たちは「主が我らと共におられる(メヌ・ホーモン・ホセオス Μενοῦ ἡμῶν ὁ θεός)」と、あのクリスマスの時に与えられた「インマヌエル(Ἐμμανουήλ)」(マタ1:23)という事実が、どれほど力ある平和をもたらすものであるか知らされていくこととなります。主から何度も「あなたの信仰はどこにあるのか」と言われながら、まことの信仰の力、信仰の平安へと導かれていく。それが私たちの歩みの現実であり、また生涯の歩みでしょう。現に主と共にいても嵐に遭いますが、結果は大丈夫ということです。だからとて何も、この世的な平安、健康や裕福、長寿、また経済的、社会的な豊かさを意味するものではありません。

今朝、同じく旧約聖書の言葉でイザヤ書 43 章から聴きました。初めにはこうありました。

「ヤコブよ、あなたを創造された主は、イスラエルよ、あなたを造られた主は、今、こう言われる。恐れるな、わたしはあなたを贖う。あなたはわたしのもの。わたしはあなたの名を呼ぶ。水の中を通る時も、わたしはあなたと共にいる。大河の中を通っても、あなたは押し流されない。火の中を歩いても、焼かれず、炎はあなたに燃えつかない。」と。

私たちはいくら信仰があるからとて、この世にある限り、水の中を通らねばならない時、また火の中を歩まねばならない時があります。しかし私たちは押し流されないし、また炎は燃えつかない。このこと自体も、不死身の体を頂いたという超自然的な現象を現実帯びているというマジック、トリックではないということです。「主が私たちと共におられ、主のものとしていられるからこそ信仰の出来事」です。多くの場合、「主が共におられるならば、どうしてこんなことが起きるのか」と思われるようです。しかし、だからこそですが、主により頼んでいくのです。その中でインマヌエルの恵みを受け取るようになります。

思い起こせば歴史を紐解く中で、苦難に遭い続けても主に信頼し続けながら生涯を貫いた先達たちの存在を知らされます。彼らの姿こそ信仰の勝利です。地位や名誉はなくとも主の勝利に生きた人達です。私たちは何も人生の勝ち組と言われるような業績・功績をこの世で勝ち取って、多くの

人々から賞賛を受けるために信仰者として歩んでいるわけではありません。人に認められたいと願ってキリスト者になっているわけでもありません。それぞれに受け止めは異なるでしょうけれども、少なくとも私はそう心に抱いて今に至っています。また私たちの全ては、この信仰の勝利、神の勝利を増すために召された者たちです。先のイザヤ書の7節には「彼らは皆、わたしの名によって呼ばれる者。わたしの栄光のために創造し、形づくり、完成した者。」とあります。私たちは“キリスト者”と呼ばれる者です。それは“キリストの名によって呼ばれる者”です。それ故に、私たちがどんな嵐の中にあっても守られているということが、神の御栄光を現していくこととなります。これにより神は、御自身の栄光を現されます。“キリスト者を守られる方は誰であるのか”、“その力ある方は誰であるのか”ということが証しされていきます。私たちの生きる姿が、キリストを証しすることとなるのです。それこそが、“福音的、証的信仰生活”です。よくも悪くもの出来事を通して、一人ひとりの人生・生きざまを通して、神の御業、御心が何であるか、神の御栄光とは何かが明らかにされていきます。

またここでの場面から、“この舟は教会を指している”ということ。教会の長い歴史の中でそのように受け止められてきました。今では教会のシンボルは、誰もしが知る『十字架』ですが、この『舟』も教会のシンボルとして用いられています。主が乗り込まれた沈まぬ舟。英語では教会の会衆席のことを nave(ネイブ)と言います。これはラテン語の navis(ナビス)、これは「舟」という意味ですが、ここから、ナビゲーター(navigator)という言葉も派生してきています。そこで、“主の日の礼拝に集う者は、沈まぬ舟に乗り込み、進むべき方向を確認し、身も心もしっかりとそれに向けて歩んでいる”ということ。 “教会が沈まぬ舟”です。私たちはクリスマスを迎える時、何度も“インマヌエル(神、我らと共にいます)”という恵みのメッセージを受けます。ちなみに今年度の教会学校の年間聖句、またカリキュラムが奇しくも、このインマヌエルを中心として定められています。このインマヌエルという恵みの事実は、“私たちの舟、私たちの人生は決して沈まない”ということを意味しています。

ここで釘を刺すようですが、“主がおられて、だからとて困難はないのか?”というとは違えます。“困難はあります”。だからとて、困難に遭っても何もしないでいいかという、然に非ずです。日々の歩みは“主に委ねて任せっきりで自分は何もしない、考えない”ということではありません。“成し得ることを最大限にしつつ神の御心を求めつつ歩み続ける”のです。そこで信仰が問われます。私たちは闇雲にではなく、“しっかりと進み道筋を選び、その方向を見据えて、皆で力を合わせて進む”ということ。そこに主が水先案内人としておられることを受けとめ、そのことを信じ、安心して舟を漕ぎ続けることです。私たちは、主から「向こう岸へ渡ろう」というこの命令を受けているのですから、それに応えるべくして舟を漕ぐのです。水が入ってくれば、必死で水を掻き出します。それも他人任せではなく、主の指し示す事柄に、私たちは身を起し、労を重ねます。独り勝手な漕ぎ方、また方向を向いては、一向に前に進みません。しかも主の望む所には着きません。見失うことなく先に進む・歩むことが求められています。「向こう岸へ渡ろう」との主の指示は象徴的です。困難が待ち受けていても主が伴われる、そのことを思って進むものです。私たちは主の示される向こう岸を目指して、主が乗り込んで下さった舟に乗って、この2024年度の日々を精一杯、一人ひとりが主を仰ぎつつ、この舟を漕いでいきたいと願うものでしょう。私たちは生身の

人間です。いつどうなるかは誰にもわかりません。しかしすべては主が共におられることが最大の勇気と希望にあります。

最後に、教会学校のカリキュラムではないですが、マタイの表現したインマヌエルなる主にあることは、キリスト自らが十字架の死をもって血を流され、復活によって生きる命へと向かわしめる救いの出来事を私たちに与えてくださったのですから、主は人生の困窮にある現実に向くことなく、むしろそれを受け止めつつ生きるように、私たちの存在の根底におられ続けます。この恵みから使徒パウロの示唆する「キリストの体」、これは人間の実態や人生の根幹が示されるように、キリストにあつて、in Christ(ἐν Χριστῷ)なるは、人間の成し得ない出来事を示すごとくに、人間と人間を「キリストの体」に結びつけ、教会に力を与えていきます。In Christ これなくしては、教会の業、信仰の証しにはなり得ません。In Christ にあつて、使徒パウロも自らの人生の歩みの中で、更に深くキリストによる救いの出来事を証しされ、教会に集う一人ひとりに生きる希望へと導き、信仰者として伝道者としての歩みを示されました。私たちがキリストの御体に連なる者として、この舟に譬えられる教会に真実に生きるものとされるべく、「聖なる公同教会、聖徒の交わり、罪の赦し、からだのみがえり、永遠の生命を信ず、この告白を豊かにしつつ、更なる信仰の歩みを願います。

祈りを献げます。

慈しみ深き主イエス・キリストの父なる御神さま、あなたの恵みの内に新たな時を与えられ、永遠の生命の源なる主から“生きよ”との力に押し出されていることを深く感謝致します。様々な困難に立ち向かう教会の使命を共に果たせますように。信仰に固く立つ畏れと勇気と、また希望をお与えください。

弱く乏しき者を顧み、あなたの指示す方向へと向かわしめてくださいますように。また一人ひとりがあなたに答える者とさせてください。あなたの導きにより主の証人として立つことが出来ますように。

共に献げられます祈りに合わせ、尊き主、イエス・キリストの聖名によって御前にお献げ致します。アーメン。

讚美歌:462「はてしも知れぬ」

献金・感謝(堀口恵美)・主の祈り

聖なる父なる御神さま、7月第二の聖日、あなたが全てを整えてくださって、主にある兄弟姉妹と共に礼拝を献げることが許されましたこと心より感謝申し上げます。

今日は鮎川牧師を通して豊かに御言葉を与えられました。私たち、本当に罪深く弱いものでありますけれども、あなたの栄光を表すためにどうぞ用いてくださいますように。今週もそれぞれの旅路を、この御言葉を糧として、日々祈りを篤くして歩むことの出来る者とさせてください。

私たちは、本当に必要な物をあなたが与えてくださり、あなたは全てをご存じです。そして、どうぞ、今、此処で与えられた御言葉を糧として、夫々に与えられた物の中から、あなたに、ここにお献げ致しました。どうぞ教会のご用のためにお使いください。

あなたが私たちに教えてくださいました主の祈りを皆で篤く祈り、そしてこの週も、あなたのことを祈りつつ歩むことが出来る者とさせてください。「主の祈り」…アーメン。

派遣:讃美歌 89「共にいてください」

祝福:主イエス・キリストの恵み、父なる神の愛、聖霊の親しき交わりが、ここから遣わされていくあなたがた一同と共に、今も後も永遠にあるように。アーメン。

報告:台湾地震(2024) 献金要請(社会委員会)

後奏:「主よ、我らのみ言葉のもとに守りたまえ」 (0. ブクステファーデ)